

琉球病院 Monthly



独立行政法人
国立病院機構 琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.49
2017. January

発行者 琉球病院事務部長
有岡 雅之

基本理念

この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

謹賀新年
新春 お慶び申し上げます



院長 福治 康秀

皆さん、新年あけまして、おめでとうございます。

旧年中は、各関連機関の皆様には、各方面でお世話になりました。どうもありがとうございました。本年もまたどうぞよろしくお祈りします。

昨年、当院においては、外来改修の完成がありました。診察室を大幅に増やし、増える外来のニーズに対して応えられるよう整備を行いました。それに伴い、外来診療機能の強化を進めているところです。医師数が足りないことなどで、なかなかニーズに応えられていない面がありますが、少ないマンパワーの中でも機能を上げていけるよう、今後も取り組んでいきます。病棟機能については、病棟機能再編後に、各病棟とも多くのニーズを受け、皆さんに選んでもらっていることを実感しています。感謝します。今後も、さらなる病棟機能の向上を目指します。

病棟建て替えにつきましては、現在2期工事が進行しており、まず、地中の雨水管工事がもうすぐ完成します。そして、いよいよ重度心身障害児(者)病棟と作業療法棟の着工です。来年度中の完成を目指しています。今しばらくお待ちください。

今年は、専門医制度の募集開始など、教育面の強化も重要な課題です。さらに、しっかりとした教育体制を構築し、人が育っていく病院として役割を果たしていきます。

今年は、酉年です。酉の由来は、「果実が極限まで熟した状態・酒熟して気の漏れる状態」というものだそうです。漢字と音が似ていて身近な動物の一つである「酉(とり)」の漢字をあてたものだそうです。そこから、物事が頂点まで極まった状態が、酉年だといわれています。今年は、皆さんにとって物事が成就していく年になるものと思います。

今後とも、琉球病院をよろしくお祈りします。

院長

福治康秀(ふくじ やすひで)

1964年生まれ、那覇市出身、
首里高校卒。

1993年琉球大学医学部卒、
琉球大学医学部精神神経科

入局。95年那覇市立病院精神科、96年琉球
大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部
長、2010年副院長を経て2014年琉球病院
長に就任。

日本病院・地域精神医学会理事。



診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・物忘れ外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数

406床

- ・精神科病棟 181床
- ・認知症 50床
- ・アルコール 54床
- ・児童思春期
ユニット 4床
- ・重症心身
障がい 80床
- ・医療観察法 37床



トピックス

教育・研修

- CVPPP(包括的暴力防止プログラム)トレーナーフォローアップ研修

日 時：平成29年1月19日(木)8:30～17:15

場 所：琉球病院研修棟会議室・北棟ジム室

地域医療連携室だより

琉球病院では、受診相談や地域、行政、他医療機関からの窓口として地域医療連携室を設置しております。一般精神をはじめ、アルコール依存症(アディクション全般)、治療抵抗性統合失調症治療薬で効果のあるクロザピンによる治療、認知症、児童思春期外来といった様々な疾患をお受けできる診療体制を整えております。また、中北部圏域を中心とした地域の皆様によりよい質の医療を提供し、適切な対応ができるよう充実した取り組みを行い、地域のニーズに応えられるよう日々努力していきたいと思っております。また、受診のご相談はお気軽に地域医療連携室までお問い合わせください。



空床状況

12月27日現在

精神科病棟

4床

認知症

5床

アルコール

6床

児童思春期ユニット

1床

※ 入院予約に関するお問い合わせは地域医療連携室へご相談下さい。

お問い合わせ時間

8:30～17:15 (土・日・祝日以外)

TEL: 098-968-2133 (代)

内線: 231・234

地域医療連携室(直通)

TEL: 098-968-3550

FAX: 098-968-7370

治療抵抗性精神疾患への医療



クロザピンの治療状況

平成22年に治療抵抗性統合失調症の患者様に対してクロザピン(CLZ)治療を開始し、全症例は190例になりました。平成28年11月のCLZ導入は2例で、他の施設からご紹介をいただいた入院中の患者様でした。CLZ治療前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために隔離が必要な患者様も多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動も少なくなり、隔離は解除できています。週に3回の専門外来も行っていますので、患者様のご紹介をお願いいたします。

m-ECT (修正型電気けいれん療法) の治療状況

当院では、m-ECT(修正型電気けいれん療法)による治療を行っております。平成28年11月の治療実績はありませんでした。

こども心療科

11月28日に宮古島市役所障がい福祉課の宮古島市自殺対策強化事業と当院で実施しているこどもの心の診療ネットワーク事業の共催で「思春期外来の現場から～気づき、つながり、連携して関わる～」というタイトルで講演会を実施し、その後事例検討会を行いました。小児科医、臨床心理士、養護教諭、スクールソーシャルワーカー、保健師など宮古島で児童思春期に関わる専門家35名が参加されました。現場で子どもたちのSOSにいかに関わればいいのか、他機関と連携するのか、講演会や事例検討を通して理解を深める良い機会となったようです。今後子どもたちを支える方々とつながり、当院でお役に立てることがあれば協力していきたいと思っております。



認知症医療

新年、お正月を迎えると遠くからお客様が来たり、同窓生の集まりがあったり、人と会う機会が多くなります。なかなか会えない人に会えるのは嬉しいことですが、お互いの元気な姿を確認できるのは幸せなことです。しかし、認知症の方は賑やかであわただしい所で過ごす体調を崩される方もいらっしゃいます。お祝ごとの後で体調を崩される方もいれば、お祝ごを前に体調を崩しお祝い事が出来なくなることもあります。それで体のことを気づかってお祝いごとを控えたり、賑やかな所へ連れて行くのを控えているご家族もいらっしゃるようです。

認知症の方が賑やかな所で体調を崩されるのは、認知機能が低下しているために多くの刺激を処理できず、自分の状況が分からなくなり不安が高まるためです。物音や音楽、たくさんの人の会話、ポスターや案内などの掲示物、飾りつけ、入れ替わり立ち代わり挨拶に来る来客、処理しきれない刺激が次々に来ると、理解できないことばかりとなり、自分がどこにいるのか、何故ここに居るのか、何をしたらいいのか、人からどう思われているのかが分からなくなり不安が募ります。しかし周囲の状況から何かをしなくてはならないと思ひ、頑張らなければならないと興奮したり、昔行っていたことを再現して役割をはたそうとします。何をどこまでしたらいいかが分からないため、行っていることを終わらせることが出来ず、不眠となる方もいます。お祝ごを前にして体調を崩す方も、お祝ひのときに自分が何をしたらいいか、段取りをどうするかが分からず不安が募り、どうかしようと思ひ、イライラ、不眠、易刺激性、依存性、昔の習慣の再現が出てきて生活が破たんしていきます。

治療としては刺激のコントロールと不安を解消する言葉かけを行います。複数の人が同時に話さない。1人の人が話し終わって次の人が話しかける時は、前の人との会話を本人が終了したと思っているか確かめてから会話を始める。そうすることで前の人との会話で心残りなことがあっても、前の人との会話を理解できずに生じた不安を持続する事無く、次の人との会話に入ることが出来ます。また、様々な刺激、音や光、飾り、ザワツキなどは過去の思い出と結びつけて理解しようとする。今の事と理解がずれていくので、現実対応にちぐはぐが出てきます。その時は、何も心配ないことを伝え、様々な刺激は自分と関係ないから気にしないでいいことを話して刺激との関係を断ち切ります。

この様に刺激の量や入り方、刺激が入った後の処理(判断・意味づけ)を手助けすることで、認知症の方もお祝ひの場や賑やかな所でも混乱することなく楽しく過ごすことが出来ます。これは自宅や施設でも必要な配慮です。琉球病院では認知症の患者様へのケア・配慮のコツの勉強会を、家族教室として毎月第4木曜日に開催しています。「申し込みなし」でどなたでも参加できます。詳しいことは地域医療連携室へお問い合わせください。

重症心身障がい医療

楽しかったクリスマス会

去る12月15日に西病棟のクリスマス会が行われました。多くのご家族の参加があり、会場の病棟食堂は満杯の大盛況でした。

院長サンタ、看護部長サンタ、事務部長サンタ、その他病棟職員のサンタ9名とトナカイ2頭の総勢11人のサンタクロースが登場しました。サンタさんとのダンスやじゃんけんゲーム、プレゼント配布など、笑顔がいっぱいの会になりました。栄養管理室から用意された、おやつのいちごのムースケーキもとてもかわいいクリスマスのイラスト入りの手作りケーキでした。また、他病棟の職員からも運営にあたり協力が得られ、職員一丸となって今年最後の行事クリスマス会を大いに盛り上げ、利用者の皆さんへ楽しいひとときを提供できたように思います。来年も盛大に！メリークリスマス！

アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い「飲酒欲求」を直接和らげてくれる作用があります。当院では11月現在、外来通院の患者様69名、入院中の患者様29名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。また、当院の外来での調査では、レグテクト内服を継続している患者様の方が、治療継続率が高いという結果も出ております。患者様へは、適宜導入を勧めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診し相談して下さい。

包括的地域精神医療 (ACT)

新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。新しい年を迎え、今年1年の目標を立てましょう。訪問看護スタッフは、利用者の皆様が、今年も健康で、希望に溢れた1年が過ぎることを願います。訪問スタッフも、利用者様の変わらない笑顔を見ることで、楽しい訪問看護活動が行えることを楽しみにしています。今年も中部・北部を毎日駆け回り、皆様が、安定した地域生活が行えるよう、一緒に悩み、考え、支援をしたいと思ひます。よろしくお願いいたします。

臨床研究部活動状況

明けましておめでとうございます。昨年2016年11月11日・12日に第70回国立病院機構総合医学会が沖縄にて開催されました。「医療構造の変化と国立病院機構に問われる役割 一命がけ、温かい医療を届けよう」をテーマに、また、特別講演では生物資源研究所所長根路銘昭先生から「加速するウイルスと癌ゲノムの進化に如何に立ち向かうべきか!」、日本相撲協会立行司第36代木村庄之助山崎敏廣先生から「努力は実る」をテーマにご講演いただきました。当日は沖縄コンベンションセンターを中心に近隣施設4つの会場を使用し、多くの研究発表がございました。当院からも多くの研究発表があり、今後ご紹介させていただく予定です。今年もよろしくお願いいたします。